

天文月報第二十一卷第十二號附錄 昭和三年十二月一日發行

自昭和三年一月  
至昭和三年十二月

(西紀一九二八年)

# 天文月報

第二十一卷

日本天文學會

# 天文月報 第二十一卷 總目次

カルシウム雲  
理學士木下國助十二二三三

## 論 説

### 書經の日食(一)

理學博士平山清次一號

三頁

### 小惑星の観測の話

理學士及川奥耶一

七

### 書經の日食(二)

理學博士平山奥耶一

七

### 變光星の観測者に

理學博士平山清次二

三三

### 白色矮星

理學士神田茂二

二七

### 太陽の氣象(一)

理學士關口鯉吉三

四六

### 太陽の氣象(二)

理學士關口鯉吉三

四九

### 科學的國際協同事業の著しい實例と

しての寫眞恒星表及び寫眞天球圖の

完成

理學博士平山清次二

四三

### 太陽の氣象(三)

理學士關口鯉吉四

六三

### 天文航法に就て

理學士秋吉利雄四

六七

### 珍らしい彗星の軌道

理學士神田茂四

七一

### 太陽の氣象(三)

理學士關口鯉吉五

八三

## 星團(一)

理學士蓮沼左千男五八七

### 彗星搜索鏡に就て

理學士蓮沼左千男一七

一

### 地球自轉速度の變化に就てのボス氏

理學博士早乙女清房六一〇三

三頁

### 星團(二)

理學士蓮沼左千男一

七

### 駕者座エプシロン星

理學士神田茂六一〇五

二〇

### 六月三日の月食

水野良平六一〇五

二〇

### 基線尺の話

陸地測量師梅本豊吉七一二七

二三三

### 天體觀測に影響する地盤の動搖に就

て理學博士今村明恒八一四三

一四三

### 觀測中の地震

理學士辻光之助八一四六

一四六

### 星の内部に於ける解離の理論

理學士萩原雄祐八一四八

一四八

### 恒星視差測定の方法とその現狀(一)

理學士松隈健彦九一六三

一六三

### 恒星視差測定の方法とその現狀(二)

理學士松隈健彦十十八三

一八三

### 科學としての天文學

理學士秋山薰十一二〇三

二〇三

### 昭和三年八月二十七日の大流星概報

理學士神田茂十一二〇五

二〇五

## 雜 錄

### 彗星搜索鏡に就て

理學士蓮沼左千男一七

一

### 研究

理學博士早乙女清房六一〇三

三三二

### 地球自轉速度の變化に就てのボス氏

理學博士早乙女清房六一〇三

三三二

### 駕者座エプシロン星

理學士神田茂六一〇五

三五二

### 六月三日の月食

水野良平六一〇五

三五二

### 基線尺の話

陸地測量師梅本豊吉七一二七

三五三

### 天體觀測に影響する地盤の動搖に就

て理學博士今村明恒八一四三

三五三

### 觀測中の地震

理學士辻光之助八一四六

三五三

### 星の内部に於ける解離の理論

理學士萩原雄祐八一四八

三五三

### 恒星視差測定の方法とその現狀(一)

理學士松隈健彦九一六三

三五三

### 恒星視差測定の方法とその現狀(二)

理學士松隈健彦十十八三

三五三

### 科學としての天文學

理學士秋山薰十一二〇三

三五三

### 昭和三年八月二十七日の大流星概報

理學士神田茂十一二〇五

三五三

### 研究

理學士秋吉利雄四

三五三

### 天文航法に就て

理學士關口鯉吉四

三五三

### 太陽の氣象(一)

理學士神田茂四

三五三

### 太陽の氣象(二)

理學士關口鯉吉五

三五三



論

彗星だより

駆者座・星の減光

特別會員豊島氏の計

本會第四十回定會

液體星

一六二九年六月二十日マニラで觀測

された日食

佛國學士院賞と補助金

星雲スペクトルに現はれる禁止線に就て

東京天文臺に於て發見せられたる新小惑星

天文學談話會記事

星雲線の原因に就て

一九二七年十一月十日の水星經過に就て

平山信博士の渡歐

六月三日月食中の星の掩蔽

水澤に於ける山本一清氏の緯度變化の觀測に就て

太陽自轉とアインシタイン偏移

極地に於ける地磁氣と太陽黑點

エロスの接近に就ての準備

ビクトリス新星は二重星乎

マゼラン雲の運動

太陽黒點變化の週期に關する新說

天文學者の計

ブレンデル教授及びインネス氏の引

退

シリウスの色は變るか

火星月に食せらる

彗星だより

木星に食せらる

天文學談話會記事

ジーンズ著「天文年鑑」

新著紹介「天文年鑑」

木星の衛星及び天王星による太陽恒數の研究

ケフュウス型變光星の國際寫眞觀測の第三年目の計畫

新變光星の命名

東京天文臺發見の新小惑星の命名

時宣傳の會生る

レイド氏逝く

天文學談話會記事

小惑星「東京第一」

東京天文臺發見の新小惑星の命名

平山信博士の渡歐

六月三日月食中の星の掩蔽

水澤に於ける山本一清氏の緯度變化の觀測に就て

太陽自轉とアインシタイン偏移

極地に於ける地磁氣と太陽黑點

エロスの接近に就ての準備

ビクトリス新星は二重星乎

力學に於ける週期解の新種類

パーコップ教授の近著

小惑星の族の研究

會員役員異動

十一月二十七日の月食

駆者座・星の減光

ハイデルベルヒに於ける天文會議

火星又近づく

龍骨座り星のスペクトル

ミラ變光星のスペクトル中にアルミニウム帶存在か

潮汐理論の新研究

ワーナーハイム教授逝去

オッペンハイム教授逝去

長週期變光星一九二九年の推算極大

無線報時修正值

天象豫告

星團の分布とシャブレーの大銀河說

アンドワイエー教授の太陰運動論

トロヤ群小惑星の新研究

土星の衛星ハイペリオンの理論

天圖

一 號

一 頁

二 號

二 頁

三 號

三 頁

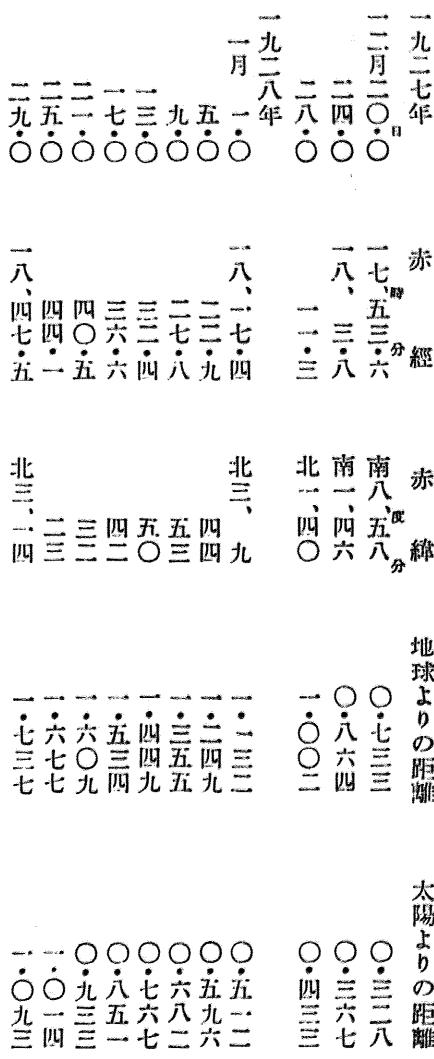
四 號

四 頁

各月の天及惑星圖	四 七 一〇 一 二	六一 一三一 一八一 一 二	五 八 一四一 二〇一 一三一	六 九 一六一 一三一 二三一	一〇一 一〇一 一〇一 一〇一 一〇一
----------	------------------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------

號	號	號	號
一	二	三	四
二	三	四	五
三	四	五	六
四	五	六	七

## 天文月報（第二十一卷總目次）



四日毎の萬國時零時（中央標準時午前九時）に於ける位置を示したもので、地球及び太陽よりの距離は天文單位で示してある。要素は發見後數日間の觀測から計算されたものと思はれるから、此位置には若干の該差は免れないであらう。天空上蛇遺ひ座と蛇座との境界附近を北より僅かに東に向つて進行中の筈であるが、見掛上太陽に近いため觀測困難で、日出前及び日没後の薄明中に辛うじて見える程度であらう。現在は太陽との距離が著しく近いために輝いてゐるが、太陽及び地球からの距離が急激に増すから光度は漸次小さくなるであらう。